



「楚漢女子」とは

本が好きな人に、本は嫌いだけどゲームは好きな人に、小説は好きだけど歴史物はちょっと・・・という人に、通勤通学中や就寝前に気軽に読める小説を探している人に、歴史に興味がある人に、ノベルゲームが好きな人に。

楚漢女子はそんなあなたにぴったりのアプリです。

機能紹介

① 辞書

人名、地名、単語、ことわざ、慣用句、物語特有の固有名称などに辞書を付けました。

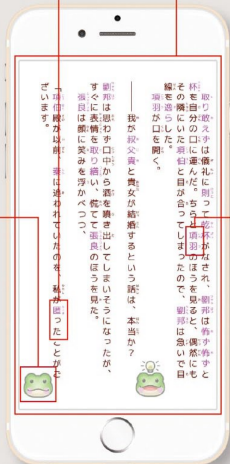
文中の語句をタップすればすぐに辞書で意味を確認することができます。知識量や理解度の不足を補うことが可能です。

※辞書単語の付け分け(ピンク、タップ時に辞書を参照する/しないは「かえる」アイコンから変更ができます。

② 設定を「かえる」

半透明の「かえる」アイコンをタップすることで開くメニュー画面から、各種設定を行うことができます。

「かえる」アイコンはドラッグすることで画面内の好きな位置に配置することができます。



③ 表示モード

一度に全ての文字が表示される「本」と、豆電球つきの「かえる」アイコンのタップで一文ずつ表示される「ゲーム」の2種類の表示モードがあります。

文字の向き(縦書き/横書き)、画面に対しての余白、表示モード「ゲーム」時の表示速度なども細かく設定できるため、ストレスなく読書/勉強をすることが可能です。

④ 振り仮名

簡単なものから難読のものまで、全ての漢字に振り仮名を振りました。

例えば「項羽」という単語であれば、「項・羽」に対して「こう・う」という具合に、一字一字に対してそれぞれ振り仮名を振りました。

これにより、語句の読み間違いや、漢字と読みの間違った紐付けなどを防ぐことが可能です。

※振り仮名を表示する/しないは「かえる」アイコンから変更ができます。

1.活字は、不自由のかたまり

漫画やアニメーションと、活字の違いは何でしょうか？

それは「不自由さ」ではないかと我々は考えます。

色取り取りに、鮮やかに彩色された漫画やアニメーションに対し、活字は黒い文字と、白い余白しかありません。

魅力的なイケメンや美少女、個性的な造形のキャラクターが躍動する漫画やアニメーションに対し、活字は複雑な漢字、難解な言い回しでしかそれを描写することができません。

活字は、心地の良い、爽やかな音声で人の聴覚に訴えかけ、場面を盛り上げることもできません。全てが不自由なのです。

ある意味、至れり尽くせりな他のコンテンツと異なり、活字はその歴史の古さ故に、とても不自由なものなのです。食べ物に例えるならば、柔らかくて食べやすいお粥に比べ、固くて食べにくい玄米食が敬遠されるのは、当たり前のことなのです。

2.不自由は、悪か

しかしちょっと待ってください。

果たして「不自由なこと」は、そんなに悪いことなのでしょうか？

例えば囲碁や将棋といったホビー、サッカーやゴルフといったスポーツは、限られたルール、厳しい制限があるからこそ、プレイヤー達はありったけの知恵を絞り、技術を磨きます。

限られたルール、厳しい制限があるからこそ、そこに様々なドラマが生まれ、見る人々を熱狂させ、感動を呼び起こすこともまた、事実なのです。

これは活字についても同じことが言えます。

「真っ赤な太陽」という活字の羅列について、「爽やかな早朝の朝焼け」を思い起こす人もいれば、「物憂げで儂い夕暮れ」を思い起こす人もいます。ドラマや映画、アニメーションのワンシーンを思い起こす人もいるでしょう。このように十人十色、人の持つ想像力こそが人の個性であると言えることができ、その広がりには無限の可能性が秘められているのです。

しかし、固定されたイメージはあくまで固定されたイメージでしかありません。誰もがサザエさんを見れば「サザエさん」だと認識するし、ドラえもんを見れば「ドラえもん」だと認識する。

これが、活字と他コンテンツと比べた場合の唯一無二の違いであり、利点であるのです。

3.我々がお手伝いできること

しかしながら、お粥を食べ慣れた人が、栄養があるからといって急に玄米食に切り替えると、おなかを壊してしまうでしょうし、囲碁や将棋といったホビー、サッカーやゴルフといったスポーツを始めるには、まず基礎となる最低限の体力が必要となるでしょう。

本アプリ「楚漢女子」は、そのお手伝いをするための存在です。

大人も、子供も、そして日本語を知らない人ももちろんのこと、知っている人ももう一度、日本語を深く、正確に学ぶことができるのです。



4.活字が読みたくなる、進化形電子書籍

本作は、今から二千年以上も昔に実際に起きた、史実をベースにした物語が二人の主人公によって展開されます。

劉邦とは、そのカリスマ性を権柄に振るった希代の人証だったのか、それとも救世の意思を秘めた、か弱きジャンヌ・ダルクだったのか。

項羽とは、その卓抜した武力を以て乱世に君臨した霸王だったのか、それとも自分の弱さを抱えつつも、運命の荒波に懸命に抗い続けたヒロインだったのか。

それを判断することができるのは、この物語を紐解いた、あなただけなのです。